

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 つつじ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (平成29年12月7日), 評価結果市町村受理日 (平成30年2月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0171300072-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年1月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町内会とは連絡を取り合い、様々な行事や避難訓練等に参加して頂き理解を得ている。近所への散歩等で顔見知りになり声を掛けていただくなど地域と共に支え合う理念を意識して取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の学習発表会への招待、絵手紙サークルなど毎年交流を重ねている。町内会行事は苺狩りや焼肉パーティーなど1年を通して参加、交流を深め入居者の楽しみにもなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者は認知症カフェに職員と共に出かけている。また、傾聴ボランティアの方が来られて行事やお祭りに参加して頂き、なじみの関係になり理解が深まっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、各ユニットからご家族と入居者も出席されて2か月に1回開かれている。入居者の日常風景や避難訓練、事故対策について話し合いが行われご理解をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査や生活保護の方との面談など事前に連絡があり、様子や状態の変化を具体的に情報として伝え協力している。市のボランティア事業開始後、訪問を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から入居者主体の行動、尊厳ある生活に努めるよう身体拘束禁止の対象となる具体的な行為(11項目)を正しく理解して再確認しながらケアにあたっている。電子錠はあるが職員が付き添い、いつでも外出できるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの方向性が同じになるようにカンファレンスを通して日頃から会議等で話し合いを行っている。虐待と言えない小さな事がエスカレートしないよう日々防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットでは今のところ後見人の利用はないが、「助けあえーる」や社会福祉協議会主催の研修会や勉強会等に参加して積極的に理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご家族やご本人に管理者が重要説明書や契約書を丁寧に説明して疑問点を十分に聞き、納得の上、契約して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画書作成時を利用したり、面会に来られた時にはできる限りお話を伺い、ご家族の気持ちに添うような場面を提供するよう心掛けている。玄関には意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個人面談を通して、職員の意見や思いを伝え、目標を持って仕事に取り組んでいる。日頃から職員間で意見が言えるような雰囲気作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の状況を把握して、勤務調整など職場環境を整える努力をしている。人手不足はあり休暇を一人ひとり取れるよう調整が難しい面はあるが、可能な限り条件に応じた対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会について情報提供があり、希望者は管理者と共に参加している。自主的に参加する職員も多くスキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流会「助けあえーる」に定期的に参加して他ホームや施設、包括支援センター職員と交流、意見交換を行っている。また、認知症カフェには入居者と共に出掛け地域交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員との日常会話や動作の中で性格や趣味、ご家族との関わりのあり方を把握するよう心掛け毎日の生活を安心して過ごせるよう関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などを通してご家族が困っていることや不安を聞き入れ、主観的にとらえず話を聞くよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いを受け止め、希望を聞きながらサービスが開始できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。得意だった事や趣味を生かしながら職員と共に関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を大切にしている。面会時には相談事や近況報告、受診結果を報告するなど関係は深まっている。忙しい方にはメールを使っての報告もしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の親戚やご家族など、ご本人から電話依頼がある時には対応を行っている。馴染みの人との関係が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ユニット交流が行なわれ、合同食事会や外出行事に参加、お誕生会、カラオケ、将棋、百人一首など行い交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者はなかったが、入院先の病院を訪ね、ご本人の状態を聞いたり、ご家族からの相談などを受け関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを取りご本人との会話の中から希望や要望を聞き分け、気持ちを汲み取り支援するようしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時には、ご本人との昔話を懐かしそうに話されることもあり「その人らしさ」を教えてくださいいただきアセスメントに活用するなど暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの特性を把握し職員間で話し合い理解するように努めている。日常の中で「できる事」「分かること」に視点をおいて支援するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成は評価、見直しを行い必要な課題を整理してケアプランに反映している。一人ひとりの「その人らしさ」を引き出すよう取り組みを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報は個別に記入しながら情報収集を行っている。カンファレンスを行いながら日々、職員間で話し合いがもたれ介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嗜好品や化粧品など個別に買物に対応したり、介護タクシーの手配や福祉用具の修理依頼、購入などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェに参加したり、ボランティアの方が来設して将棋や菜園活動を共に行っている。また、訪問理容を受け地域との繋がりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護、居宅療養管理指導など協力病院、調剤薬局と連携して適切な医療が受けられるよう体勢がとられている。ご家族の希望の病院の場合も柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師が来設、日頃の入居者の状態を伝え相談して適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連絡、調整などご本人の状態を確認しながら小まめに情報交換をしている。ご家族やご本人の気持ちを考えながら退院できるように病院側と調整を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明の際に話し合いが行われているが、ご本人の状態の変化によっては再度検討が必要な場合もある。ご家族も気持ちは揺らぐため気持ちに寄り添いながら説明していく体制がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急マニュアルが作成されている。AEDの使用方法やノロウイルスの嘔吐処理方法などテーマを決めて実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は自主的に毎月行っている。ホーム内の設備、スプリンクラー、煙探知機などの理解、火災報知器の操作方法、消火器訓練を行っている。町内会の協力体制もできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声のかけ方、対応を心掛けている。プライバシーに配慮しながら日々ケアにあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人がやりたい事を見つけ、自己決定ができるような場面を作っている。言えない方は表情やしぐさで気持ちを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり日々、関わりを持ちながら、ご本人のペースを理解して「その人らしさ」を引き出すことができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、髭剃り、着衣など、その人らしい身だしなみができるよう支援している。美容室への希望にも対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きな食材を利用して、彩りよく栄養バランスを考え提供している。菜園活動で採れた野菜を利用して漬物作りも行っている。お茶入れや食器拭きなど片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量は記載して把握している。便秘の方には、牛乳や果物を提供して便秘予防に努めている。ご本人の状態によってゼリーや好みの飲み物、トロミなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声をかけ、一人ひとりの状態に合わせて行っている。週一回、希望者は訪問歯科診療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄表を作成してパターンを把握している。自力で行ける方には職員が声をかけたり、状況によっては職員2人で介入して安全・安心を心がけて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを提供したり、消化の良い野菜等を取り入れている。また、便秘時には、Drと相談して便秘薬で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見ながら入浴にお誘いしたり、拒否がある方は、タイミングよく声をかけるようにしている。また、自身で入浴日を希望されている方にも対応している。毎日入れるような環境作りをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠が取れるよう日中の活動を促し、生活リズムが作れるよう努めている。Drと相談して眠剤で調整を行なっている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりお薬情報を把握して用法、用途、副作用など理解して、Drの指示通りに服用している。職員2名で読み合わせを行い誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技、菜園、家事、将棋、ゲーム、体操など様々な活動を通して楽しみや役割を持って生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や入居者に希望を聞き取り、個人参加の行事を立案している。また外出行事では地域のレストランや商業施設に出かけている。日常的な散歩、買物対応を行ったり季節ごとの行事を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っている方はいるが金銭管理は徐々に難しくなっている方もいる。ご家族と相談しながら、ご本人の状況によって職員が介入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があればいつでも電話対応している。難聴で聞こえづらい方には職員が取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけをしたり、壁にはお誕生会や行事のお知らせが貼られている。日めくりカレンダーは低くして見やすい位置に掛けてある。ホールにはソファを配置して居心地よく過ごせるよう工夫している。廊下には日常生活の写真も飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者がソファでうとうと傾眠したり、食席で気の合ったもの同士がお話したりと、ホールで過ごされる方が多く和やかな雰囲気になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇など馴染みの家具が置かれている。ご家族やお孫様との写真も飾られ安心できるよう配慮している。ご本人が自慢の賞状やホームで作った作品も飾られている。また、家具の配置替えにも対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、居室などわかりやすく表示している。目の見えずらい方には表示を大きくしたり白黒反転文字にするなど個別に対応している。理解が困難な方は非言語も用いながら意識付けをしている。		